

利根川の歴史

五年 茂田 千裕

ぼくたちのすんでいる坂東市と野田市の間には、利根川が流れています。

利根川は、日本で二番目に長い川で、面積は日本で二番目に長い川で、面積は、日本で一番大きい川です。ぐん馬県、さい玉目、城県、千葉県のあいだを流れています。

江戸時代には、舟を使って江戸まで物を運んだそうです。

でも、となりの野田市へいくのには、そのころは、はしがなかったため、小山の渡しから目吹の渡しへ舟でわたっていたため、雨や天氣の悪い日には、舟が出ないため行くことが出さず、たいへんだ、たそうです。

明治時代には、多くの舟が通っていたため、利根運河をつくり、より便利になったそうです。

でも、昭和16年に洪水がおこり、矢作新田は水びだしとなり多くの家や作物がむがいとう

けたそうです。

でも、たんたんと鉄道や東の時代になったため、道路やはしが必要となり、ぼくの家の前の道路もそのころにつくられたそうです。そして、多くの工場の人に来ていて、ぼくの家の本ぞうはねとまりしていたそうです。なので芽吹大はしができて、バスがはし、たまたまには東陽寺前という名前をつけてくれたとばあちゃんがよく話をしています。

でも、利根川があるおかげで、坂東市は、田畑が多く、おいしいお米や野菜がたくさんとれます。

これが、うぼくたちは、この大切な利根川を大切に守る、こいかなければならないと思います。